

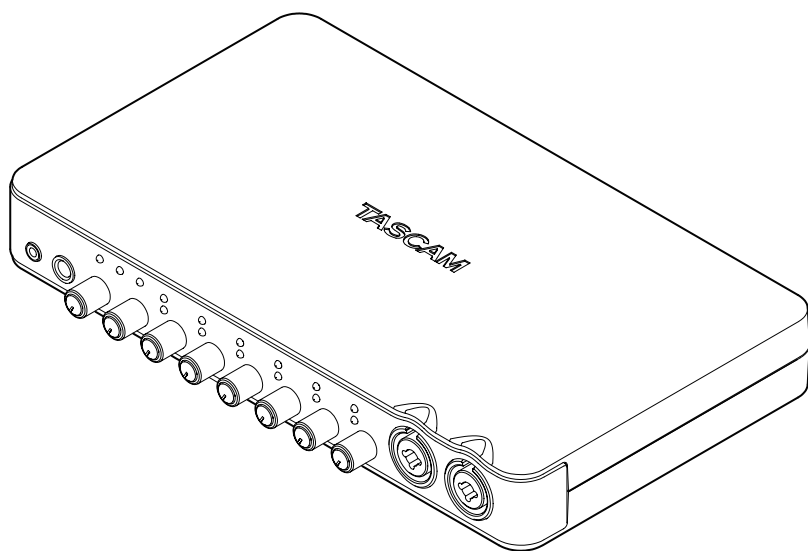
TASCAM
TEAC PROFESSIONAL

D01105601B

US-800

USB 2.0 Audio/MIDI Interface



取扱説明書






安全にお使いいただくために

この取扱説明書の表示は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は、次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

表示の意味

 警告	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
 注意	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

	△ 記号は注意（警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。
	⊘ 記号は禁止の行為であることを告げるものです。 図の中に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。
	● 記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。 図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け）が描かれています。

警告





万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに機器本体に接続されているACアダプターの電源プラグをコンセントから抜いてください。煙がなくなるのを確認して販売店またはティアック修理センターに修理をご依頼ください。



万一機器の内部に異物や水などが入った場合は、まず機器本体に接続されているACアダプターの電源プラグをコンセントから抜いて、販売店またはティアック修理センターにご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

万一、この機器を落としたり、キャビネットを破損した場合は、機器本体に接続されているACアダプターの電源プラグをコンセントから抜いて、販売店またはティアック修理センターにご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

警告

	<p>ACアダプター用電源コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）、販売店またはティアック修理センターに交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。</p>
	<p>ACアダプターの電源プラグの刃および刃の付近にほこりや金属物が付着している場合は、電源プラグを抜いてから乾いた布で取り除いてください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。</p> <p>この機器を設置する場合は、壁から20cm以上の間隔をおいてください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。</p>
	<p>この機器の隙間などから内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。</p> <p>この機器の上に小さな金属物を置かないでください。中に入った場合、火災・感電の原因となります。</p> <p>ACアダプターの電源プラグ、およびコードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷にならないようにしてください。コードに傷がついて、火災・感電の原因となります。</p> <p>ACアダプター用電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。コードが破損して、火災・感電の原因となります。</p> <p>船舶などの直流（DC）電源には、接続しないでください。火災・感電の原因となります。</p>
	<p>この機器のカバーは、絶対に外さないでください。感電の原因となります。内部の点検・修理は、販売店またはティアック修理センターにご依頼ください。</p> <p>この機器を改造しないでください。火災・感電の原因となります。</p>
	<p>この機器の上に花瓶や水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合は、火災・感電の原因となります。</p>

⚠️ 注意



移動させる場合は、必ずACアダプターの電源プラグをコンセントから抜き、機器間の接続コードなど外部の接続コードを外してから行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

旅行などで長期間、この機器をご使用にならないときは、安全のため必ずACアダプターの電源プラグをコンセントから抜いてください。

お手入れの際は、安全のためACアダプターの電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。



オーディオ機器、スピーカー等の機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続してください。また、接続は指定のコードを使用してください。

電源を入れる前には、音量を最小にしてください。突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。

この機器はコンセントの近くに設置し、ACアダプターの電源プラグに容易に手が届くようにしてください。

この機器には、付属の専用ACアダプター（TASCAM PS-P520）およびACアダプター用電源コードセットをご使用ください。それ以外の物を使用すると故障、火災、感電の原因となります。



ヘッドホンをご使用になるときは、音量を上げすぎないように注意してください。

耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪影響を与えることがあります。

次のような場所に置かないでください。火災、感電やけがの原因となることがあります。

- ・ 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気があたる場所
- ・ 湿気やほこりの多い場所
- ・ ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所

ACアダプター用電源コードを熱器具に近付けないでください。コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

⚠ 注意



ACアダプターの電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。



5年に一度くらいは、機器内部の掃除を販売店またはティアック修理センターにご相談ください。内部にほこりがたまったら、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除費用については、ご相談ください。



濡れた手でACアダプターの電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。

この装置は、クラスB技術情報装置です。この装置は家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しく取り扱いをして下さい。

VCCI-B

目次

安全にお使いいただくために	2	モニタースピーカー	27
第1章 はじめに	7	ヘッドホン	27
本機の機能	7	MIDI機器の接続	27
本製品の構成	8	第6章 モニターミキシング	28
本書の表記	8	用途	28
商標に関して	8	デジタルミキサーを使って	28
設置上の注意	9	モニターするには	28
結露について	9	第7章 アプリケーションガイド	30
製品のお手入れ	9	Cubase LE 5	30
アフターサービス	9	Windows XP と	30
第2章 各部の名称と働き	10	Windows Media Player	30
フロントパネル	10	Windows Vista と	30
リアパネル	11	Windows Media Player	30
第3章 インストール	13	Mac OS X と iTunes	31
必要なシステム	13	第8章 スタンドアローンモード	32
Windows	13	概要	32
Mac OS X	13	スタンドアローンモード時の各設定	32
ドライバーのインストール	13	ミキサー	32
Windows用ドライバーのインストール ..	14	出力セクター	32
Mac OS X用ドライバーのインストール ..	15	サンプルレート	32
ドライバーのアンインストール	16	第9章 MIDI	
インストールについて	16	インプリメンテーションチャート	33
よくある質問と回答 (FAQ)	16	第10章 トラブルシューティング	34
パソコンの設定	16	第11章 仕様	38
Cubase LE 5のインストール	16	定格	38
第4章 US-800コントロールパネルの設定 ..	17	入力定格	38
概要	17	アナログオーディオ入力定格	38
コントロールパネルの設定	17	デジタルオーディオ入力定格	38
メニューバーについて	17	出力定格	38
MIXERタブ／OUTPUTタブ	18	アナログオーディオ出力定格	38
ミキサータブ画面	19	デジタルオーディオ出力定格	38
アウトプットタブ画面	22	コントロール入出力定格	38
第5章 接続	25	オーディオ性能	39
USBの接続	26	動作条件	39
オーディオの接続	26	Windows	39
マイク	26	Mac OS X	39
ギター	26	一般	39
キーボード／ドラムマシン／		寸法図	40
音源モジュール／カセットデッキ／ ..		ブロックダイアグラム	41
MD／CDなど (アナログ接続) ...	26		
音源モジュール／			
MD／CDなど (デジタル接続)	27		

このたびは、TASCAM USB 2.0 Audio/MIDI Interface US-800をお買いあげいただきまして、誠にありがとうございます。

ご使用になる前に、この取扱説明書をよくお読みになり、正しい取り扱い方法をご理解いただいたうえで、末永くご愛用くださいますようお願い申し上げます。お読みになったあとは、いつでも見られるところに保管してください。

また取扱説明書は、TASCAMのウェブサイト (<http://www.tascam.jp/>) からダウンロードすることができます。

最新の取扱説明書についても、上記のサイトをご確認ください。

本機の機能

- 8入力、6出力のオーディオインターフェース
- 24ビット／96kHz対応
- 2系統のXLR／TSコンボジャック入力（バランスマイク／アンバランスインスト）、4系統のXLR／TRSコンボジャック入力（バランスマイク／バランスライン）
- S/PDIF デジタル入力
- +48Vファントム電源供給可能（6マイク入力）
- 2系統のアンバランスライン出力、デジタル出力、および2系統のヘッドホン出力
- S/PDIFデジタル出力
- ダイレクトモニター機能により遅延が少ない入力モニターが可能。また、ダイレクトモニター用に内蔵デジタルミキサーを装備
- オーディオプロトコルとしてASIOとWDMを同時に使用可能なマルチクライアント対応
- ヘッドホン出力は、ステレオ標準ジャックとステレオミニジャックの2系統を装備し（出力信号は同じ）、2系統で49mW+49mWの出力が可能
- インプットモニターミキサーは、デジタル処理による14in+2outミキサーを装備。
- MIDI INおよびMIDI OUT各1系統を装備
- USB接続を必要としないで入出力動作を行うスタンドアローンモードを装備。本モード時は、入力信号がdefault設定状態のミキサーおよび出力セレクトを経由して、各出力端子から出力が可能。パソコンが無い環境での「MICのプリアンプ」としての動作が可能
- 専用Windowsドライバー（Windows XP、Windows vista、Windows 7）装備。また、専用Macドライバー（OS10.6）装備。
- Macは、USB Audio Class 2.0対応
- USB2.0 High speed（480MHz）対応
- Cubase LE 5をバンドル

パソコン操作に関して

本書の説明に出てくるパソコンの基本操作について不明な点がある場合は、お使いのパソコンの取扱説明書をご参照ください。

第1章 はじめに

本製品の構成

本製品の構成は、以下の通りです。

なお、開梱は本体に損傷を与えないよう慎重に行ってください。梱包箱と梱包材は後日輸送するときのために保管しておいてください。付属品が不足している場合や輸送中の損傷が見られる場合は、当社までご連絡ください。

- | | |
|----------------------------|----|
| ● 本体 | x1 |
| ● ACアダプター (TASCAM PS-P520) | x1 |
| ● ACアダプター用電源コードセット | x1 |
| ● USBケーブル | x1 |
| ● CD-ROM (ドライバーなどを含む) | x1 |
| ● DVD-ROM (Cubase LE 5) | x1 |
| ● Cubase LE 5クイックスタートガイド | x1 |
| ● 保証書 | x1 |
| ● 取扱説明書 (本書) | x1 |

注意

本機には、必ず付属の専用ACアダプター (TASCAM PS-520) とACアダプター用電源コードセットをご使用ください。また、付属のACアダプターと電源コードを他の機器に使用しないでください。故障、火災、感電の原因となります。

本書の表記

本書では、以下のような表記を使います。

- 本機および外部機器のキー／端子などを「**PHONES**つまみ」のように太字で表記します。
- パソコンのディスプレイに表示される文字を《**OK**》のように《 》で括って表記します。

- 必要に応じて追加情報などを、「ヒント」、「メモ」、「注意」として記載します。

ヒント

本機をこのように使うことができる、といったヒントを記載します。

メモ

補足説明、特殊なケースの説明などをします。

注意

指示を守らないと、人がけがをしたり、機器が壊れたり、データが失われたりする可能性がある場合に記載します。

商標に関して

- TASCAMおよびタスカムは、ティアック株式会社の登録商標です。
- Microsoft、Windows、Windows XP、Windows Vista、Windows 7、および Windows Media Player は、米国 Microsoft Corporation の、米国、日本およびその他の国における登録商標または商標です。
- Apple、Macintosh、Mac、Mac OS X、および iTunes は、Apple Inc. の商標です。
- Pentium および Intel は、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation の商標です。
- AMD Athlon は、Advanced Micro Devices, Inc. の商標です。
- MIDI は、社団法人音楽電子事業協会 (AMEI) の登録商標です。
- Cubase は、Steinberg Media Technologies GmbH の登録商標です。ASIO は、Steinberg Media Technologies GmbH の商標です。
- その他、記載されている会社名、製品名、ロゴマークは、各社の商標または登録商標です。

設置上の注意

- 本製品の動作保証温度は、摂氏5度～35度です。
- 次のような場所に設置しないでください。音質低下の原因、または故障の原因となります。
 - 振動の多い場所。
 - 窓際などの直射日光が当たる場所。
 - 暖房器具のそばなど極端に温度が高い場所。
 - 極端に温度が低い場所。
 - 湿気の多い場所や風通しが悪い場所。
 - ホコリの多い場所。
- 本製品は、水平に設置してください。
- 放熱を良くするために、本製品の上には物を置かないでください。
- パワーアンプなど熱を発生する機器の上に本製品を置かないでください。

結露について

本製品を寒い場所から暖かい場所へ移動したときや、寒い部屋を暖めた直後など、気温が急激に変化すると結露を生じることがあります。結露したときは、約1～2時間放置した後、電源を入れてお使いください。

製品のお手入れ

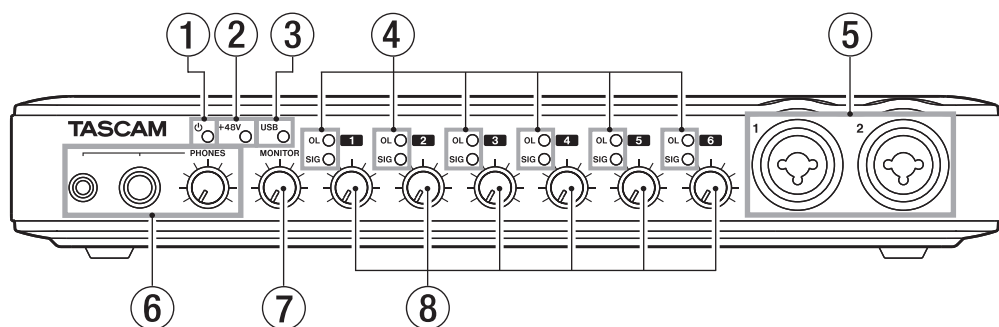
製品の汚れは、柔らかい布でからぶきしてください。化学ぞうきん、ベンジン、シンナー、アルコールなどで拭かないでください。表面を痛めたり色落ちさせる原因となります。

アフターサービス

- この製品には、保証書を別途添付しております。保証書は、所定事項を記入してお渡ししていますので、大切に保管してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年です。保証期間中は、記載内容によりティアック修理センターが修理いたします。その他の詳細につきましては、保証書をご参照ください。
- 保証期間経過後、または保証書を提示されない場合の修理などについては、お買い上げの販売店またはティアック修理センターにご相談ください。修理によって機能を維持できる場合は、お客さまのご要望により有料修理いたします。
- 万一、故障が発生した場合は使用を中止し、必ず電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げ店またはティアック修理センターまでご連絡ください。修理を依頼される場合は、次の内容をお知らせください。
 - 型名、型番 (US-800)
 - 製造番号 (Serial No.)
 - 故障の症状 (できるだけ詳しく)
 - お買い上げ年月日
 - お買い上げ販売店名
- お問い合わせ先につきましては、巻末をご参照ください。

第2章 各部の名称と働き

フロントパネル



① 電源 (スタンバイ／オン) インジケーター

電源がオンのときに、点灯します。

② +48Vインジケーター

PHANTOM (+48V) スイッチがONのときに点灯します。

注意

このインジケーターが点灯しているときには、マイクの抜き差しをしないでください。

③ USBインジケーター

USB接続が有効なときに、点灯します。

④ OL / SIGインジケーター

OL (オーバーロード) インジケーター

入力が歪む直前 (−2dBFSを超えた場合) で点灯します。

SIG (シグナル) インジケーター

各チャンネルに信号が入力されている (−30dBFS以上) ときに点灯します。

⑤ MIC/INST IN

[BALANCED/UNBALANCED] 端子

XLRとTS標準ジャックのコンボタイプのアナログマイク／インストゥルメント入力端子です。XLR 端子にはマイク (バランス) を接続し、TS標準ジャック (アンバランス) にはエレキギター／ベースなどを接続します。

・XLR (1 : GND, 2 : HOT, 3 : COLD)

・TS (Tip : HOT, Sleeve : GND)

⑥ PHONESジャック／つまみ

ステレオヘッドホンを接続するためのステレオミニジャック (PHONES 1) とステレオ標準ジャック (PHONES 2) です。最大出力は、ステレオミニジャックとステレオ標準ジャックの合計で49mW+49mWです。

PHONESつまみでヘッドホン出力レベルを調節します。

注意

ヘッドホンを接続する前には、PHONESつまみで音量を最小にしてください。突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。

⑦ MONITORつまみ

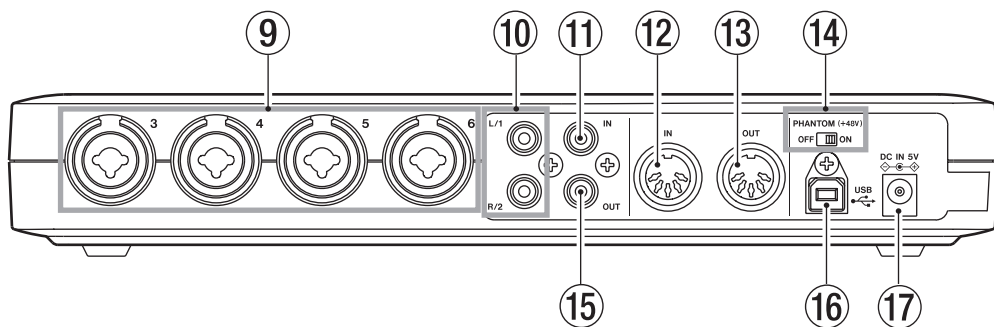
LINE OUT L / Rの出力レベルを調節します。

⑧ ゲインつまみ

MIC/INST IN 1-2およびMIC/LINE IN 3-6の入力レベルを、個別に調節します。

左いっぱいに回すと最小レベル、右いっぱいに回すと最大レベルになります。

リアパネル



- ⑨ **MIC/LINE INPUTS [BALANCED] 端子**
XLRとTRS標準ジャックのコンボタイプのアナログマイク／ライン入力端子です。XLR端子にはマイク（バランス）を接続し、TRS標準ジャック（バランス）にはキーボードや音源などを接続します。

- XLR (1 : GND、2 : HOT、3 : COLD)
- TRS (Tip : HOT、Ring : COLD、Sleeve : GND)

- ⑩ **LINE OUT [UNBALANCED] 端子**
(1 / 2またはL / R)

RCAピンジャックのアナログライン出力端子（アンバランス）です。

この端子からは、USB経由で入力されたパソコンの出力信号、あるいは内蔵モニターミキサーの出力信号などを出力します。

どの出力信号を出力するかは、パソコン上のUS-800のコントロールパネル上で設定します。この端子には、レコーダー、アンプ内蔵スピーカー、外部エフェクターなどを接続します。スタンドアローンモードでは、MIC/INST1-2端子の入力信号がこの端子から出力されます。

- ⑪ **DIGITAL IN [COAXIAL] 端子**
IEC60958-3 (S/PDIF) に準拠したCOAXIALデジタル入力端子です。

メモ

本機の**DIGITAL IN**端子は、24ビット／96kHzの入力に対応しています。

- ⑫ **MIDI IN端子**
DIN 5ピンの標準MIDI入力端子です。MIDI信号を入力します。

- ⑬ **MIDI OUT端子**
DIN 5ピンの標準MIDI出力端子です。MIDI信号を出力します。

第2章 各部の名称と働き

⑭ PHANTOM (+48V) スイッチ

マイク入力端子(1-6)に+48Vのファントム電源を供給するためのスイッチです。

注意

- 本体の電源オン／オフ（ACアダプターの抜き差し）は、**PHANTOM (+48V)** スイッチを**OFF**にした状態で行ってください。
- このスイッチの**ON**または**OFF**は、機器の出力音量を**PHONES**つまみ、および**MONITOR**つまみで下げた状態で行ってください。マイクによっては大きなノイズを発生し、他の機器または人体を損傷する恐れがあります。
- このスイッチを**ON**にした状態でマイクの抜き差しをしないでください。
- ファントム電源を必要とするコンデンサーマイクを使用する場合のみ、このスイッチを**ON**にしてください。
- アンバランスタイプのダイナミックマイクロホンにファントム電源を供給しないでください。
- リボンマイクロホンの中には、ファントム電源を供給すると故障の原因になるものがあります。疑わしい場合は、リボンマイクロホンにファントム電源を供給しないでください。
- XLRにライン機器を接続するときには、ファントム電源を供給しないでください。

⑮ DIGITAL OUT [COAXIAL] 端子

IEC60958-3 (S/PDIF) に準拠したCOAXIAL デジタル出力端子です。

USB経由で入力されたパソコンの出力信号、あるいは内蔵モニターミキサーの出力などを出力します。

どの出力信号を出力するかは、パソコン上のUS-800のコントロールパネル上で設定します。この端子には、レコーダー、外部エフェクターなどを接続します。

スタンドアローンモードでは、**MIC/LINE INPUTS 3-4**端子の入力信号がこの端子から出力されます。

メモ

本機の**DIGITAL OUT**端子は、24ビット／96kHzの出力に対応しています。

⑯ USB端子

付属のUSBケーブルを使って、USB 2.0対応パソコンと接続します。

⑰ DC IN 5V端子

付属の専用ACアダプター（TASCAM PS-P520）を接続します。

必要なシステム

最新の対応OS状況については、TASCAMのウェブサイト (<http://www.tascam.jp/>) にて、ご確認ください。

Windows

- **対応OS：**
Windows XP 32ビット SP2以上
Windows XP 64ビット SP2以上
Windows Vista 32ビット SP2以上
Windows Vista 64ビット SP2以上
Windows 7 32ビット
Windows 7 64ビット
- **対応パソコン：**
USB2.0ポートを装備したWindows対応パソコン
- **CPU / クロック：**
Pentium4 1.4GHz以上
AMD Athlon 1.4GHz以上
(または同等のプロセッサ)
- **メモリー：**
1GB以上

注意

本機の動作確認は、上記のシステム条件を満たす標準的なパソコンを使って行われていますが、上記条件を満たすパソコン全ての場合の動作を保証するものではありません。同一条件下であっても、パソコン固有の設計仕様や使用環境の違いにより処理能力が異なります。

Mac OS X

- **対応OS：**
Mac OS X 10.6.3以上
- **対応パソコン：**
USB端子を標準で装備しているApple Macintosh シリーズ
- **CPU / クロック：**
Intelプロセッサ
- **メモリー：**
1GB以上

ドライバーのインストール

本機を使用するには、パソコンにドライバーをインストールする必要があります。以下に述べるように、本機に付属のドライバー CD-ROMを使って簡単にインストールすることができます。

ドライバーは、随時更新されています。最新のドライバーは、TASCAMのウェブサイト (<http://www.tascam.jp/>) からダウンロードすることができます。なお、ドライバーをインストールするときは、本機の接続を外してから始めてください。

注意

- 付属のドライバー CD-ROMの取り扱いには、充分ご注意ください。ディスクに傷や汚れがあると正しくデータを読み出せないためにインストールできない場合があります。なお、付属のドライバー CD-ROMが破損した場合は、有償にて交換できます。
- 付属のドライバー CD-ROMを一般のオーディオCDプレーヤーでは、絶対に再生しないでください。ノイズによって、スピーカーを破損したり聴力障害が起きることがあります。

第3章 インストール

Windows用ドライバのインストール

注意

ドライバのインストール中に、《Windowsロゴテストに合格していません...》という警告が表示されます。

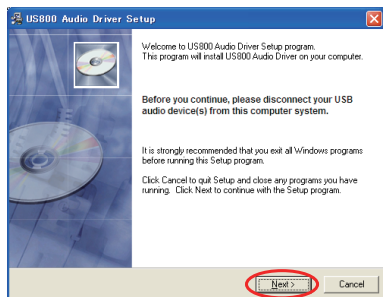
この警告は、Windowsのロゴテストを受けていないドライバをインストールするときに表示されるメッセージです。

弊社製品のドライバは、Windowsのロゴテストを受けていないためにこのメッセージが表示されますが、本ドライバは弊社で動作確認済みです。

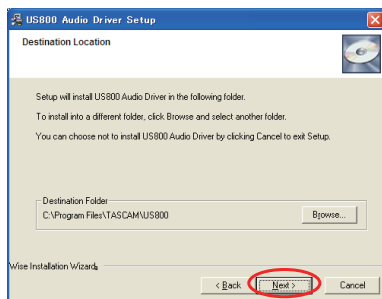
このメッセージが表示されたときは、《続行》または《インストールする》をクリックしてインストールを続けてください。

ドライバのインストール

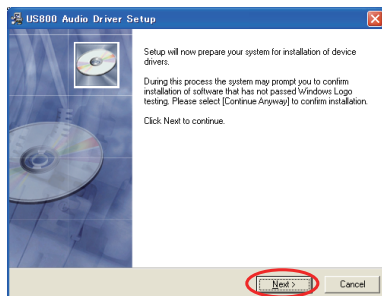
1. 本機とパソコンがUSBケーブルで接続されていないことを確認します。
2. 付属のドライバ CD-ROMをご使用のパソコンにセットします。
3. 付属のドライバ CD-ROM内のファイルを参照して《US-800 Win Driver》フォルダ内の《setup.exe》ファイルを実行してください。
4. 次の画面が表示されたら、《Next》ボタンをクリックします。



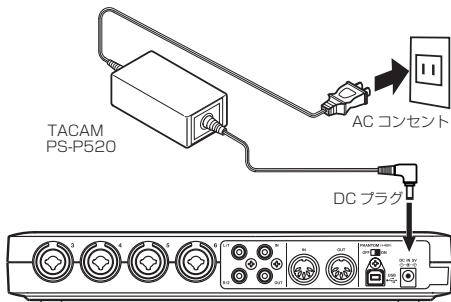
5. インストール場所の画面が表示されたらインストール場所を指定して、《Next》ボタンをクリックします。

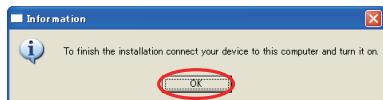
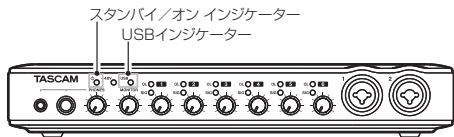


6. 次の画面が表示されたら、《Next》ボタンをクリックします。



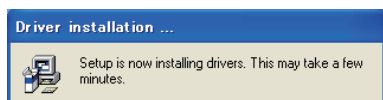
7. 次の画面が表示されたら、付属のUSBケーブルを使って本機とパソコンを接続し、付属のACアダプター（TASCAM PS-P520）を本機に接続してください。





本機の (スタンバイ/オン) インジケータとUSBインジケータが点灯したのを確認して、《OK》ボタンをクリックします。

8. パソコンがUS-800を認識して、ドライバーのインストールを自動で行います。

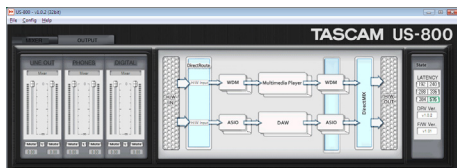


9. インストールが終わると通知領域（タスクトレイ）に以下のアイコンが表示されます。



このアイコンをクリックしてUS-800コントロールパネルを起動します。

10. 《OUTPUT》画面の《STATE》欄の《DRV Ver.》と《F/W Ver.》にバージョンが表示されていれば、インストールは成功です。



Mac OS X用ドライバーのインストール

Macの場合は、USBドライバー自体はApple純正のドライバーを使用しますので、実質的にはコントロールパネルのみのインストールとなります。

1. 本体がパソコンに接続されていないことを確認します。
2. 付属のドライバーCD-ROM内の《US-800 Panel.app.dmg》をダブルクリックします。デスクトップ上に《US-800 Panel》（ディスクイメージ）ができますので、このフォルダを開きます。

《Finder》の設定によっては、サイドバーにディスクイメージが表示されます。デスクトップまたはサイドバーのどちらにも表示されないときは、《移動》メニューから《コンピュータ》を選択してください。



3. フォルダ内の《US-800 Panel》（プログラムアイコン）をパソコンのデスクトップなどへコピーします。



US-800 Panel

4. 《Finder》で、《US-800 Panel》（ディスクイメージ）フォルダを閉じます。
5. パソコンを再起動後、本機を接続します。

第3章 インストール

ドライバーのアンインストール

Windows XP

1. 《スタート》→《コントロールパネル》で、《プログラムの追加と削除》を実行します。
2. 一覧の中から《US800 Audio driver》を選択し、《変更と削除》ボタンをクリックします。
3. 以降は、スクリーンの指示に従ってください。

Windows Vista および Windows 7

1. 《スタート》→《コントロールパネル》で、《プログラムと機能》を実行します。
2. 一覧の中から《US-800 Audio driver》を選択し、《アンインストールと変更》ボタンをクリックします。
3. 以降は、スクリーンの指示に従ってください。

Mac OS X

《US-800 Panel》アイコンをゴミ箱へ移動します。

インストールについてよくある質問と回答 (FAQ)

Windows用ドライバー のインストール

Q：本機をパソコンに接続すると、新しいハードウェアの検出ウィザードが表示され、ドライバーのインストールができません。
インストール方法が間違っているのでしょうか？

A：《ハードウェアの追加ウィザード》を閉じ、本機の接続を外してください。本機を接続する前に、あらかじめドライバーをインストールする必要があります。

手順については、14ページ「Windows用ドライバーのインストール」をご覧ください。

Q：付属のドライバー CD-ROMをWindowsパソコンに挿入しましたが、ドライバー・インストール・メニューが表示されません。

どうすればメニューを始めることができますか？

A：ドライバー用CD-ROM は、自動再生を行いません。

14ページ「Windows用ドライバーのインストール」の手順に従って、ドライバーをインストールしてください。

パソコンの設定

本取扱説明書では、基本的なポイントのみを以下に述べます。

- 他のアプリケーションを立ち上げないようにしてください。

本機を接続しているパソコンをオーディオ以外の用途に使用することもあると思いますが、オーディオアプリケーションを使用しているときには、他のアプリケーションを立ち上げないようにしてください。

デジタルオーディオの処理は、パソコンにかなりの負担をかけます。したがって、他のアプリケーション（特にグラフィックやインターネットツール）を動作することによって、処理が追いつかなくなる可能性があります。

Cubase LE 5のインストール

詳しくは、付属のCubase LE 5クイックスタートガイドを参照ください。

第4章 US-800 コントロールパネルの設定

概要

コントロールパネルでは、本機の機能の設定を行うことができます。

Windowsは、右下の通知領域（タスクトレイ）にアイコンがあります。

Macはインストール時に、《US-800 Panel》をコピーした場所にアイコンがあります。コントロールパネルを開くには、このアイコンをダブルクリックします。その他、Mac OS Xでオーディオの設定に必要な《Audio MIDI 設定》は、アプリケーション／ユーティリティのフォルダにあります。

コントロールパネルの設定

メニューバーについて

Windowsの場合

File

- **Close Window**
ウィンドウを閉じます。

Config

- **Mouse Wheel**
マウスのホイールでフェーダーの上下をする場合の1カウントあたりの移動量を設定します。
設定値：Step1（初期値）、Step2、Step4、Step8
- **Latency**
本機のドライバーのオーディオ入出力信号を一時的に蓄えるバッファのサイズを変更してパフォーマンスをお使いの環境に合わせることができます。
設定値：192、240、288、336、384、576（初期値）

注意

レイテンシを変更するときは、US-800が接続されているアプリケーションが全て閉じられている必要があります。

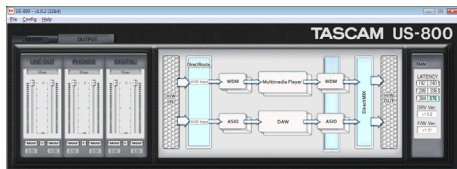
メモ

パソコンの能力が足りずにノイズが入る場合は、設定値を大きくします。設定値を大きくすると、その分レイテンシ（オーディオ信号の遅れ）は大きくなります。お使いの環境に合わせて設定してください。

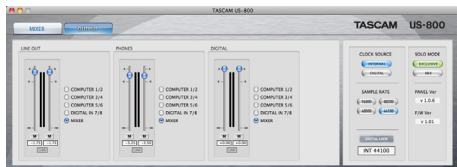
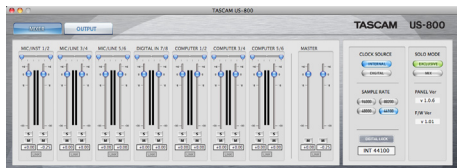
● **Samplerate**

サンプル周波数を選択します。

設定値：44100Hz（初期値）、48000Hz、88200Hz、96000Hz



[Windowsのコントロールパネル]



[Mac OS Xのコントロールパネル]

第4章 US-800 コントロールパネルの設定

● Clock

クロックに内部クロックを使うか、DIGITAL IN端子に入力されたデジタル信号のクロックを使うかを設定します。

設定値：Internal（初期値）、Digital In

● Factory Default

工場出荷時の設定に戻します。確認画面が表示されますので《OK》をクリックしてください。

● Always on Top

常にいちばん手前に表示するようにします。選択されている場合、本項目の前にチェックがつきます。

Help

● About

US-800のコントロールパネルのバージョンをポップアップウィンドウに表示します。

Macの場合

US-800 Panel

● About US-800 Panel

US-800のコントロールパネルのバージョンを表示します。

● Hide US-800 Panel

US-800のコントロールパネルを非表示にします。

● Hide Others

US-800のコントロールパネル以外を非表示にします。

● Show All

全てを表示にします。

● Quit US-800 Panel

US-800のコントロールパネルを終了します。

Configuration

● Restore Factory Defaults

設定値を工場出荷時に戻します。

● Always on Top

常に手前に表示します。

Window

● Minimize

最小化します。

● Zoom

使用できません。

● Bring All to Front

全てのウィンドウを手前にもってきます。

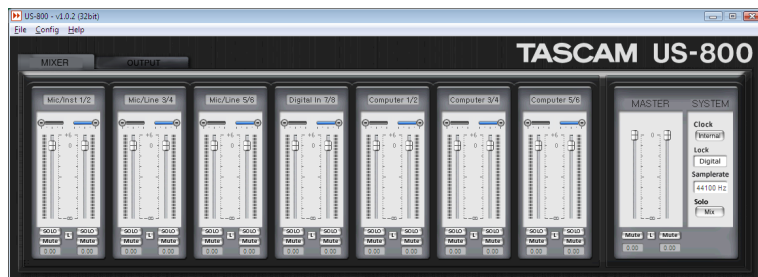
MIXERタブ／OUTPUTタブ

各タブをクリックすることで、《MIXER》タブと《OUTPUT》タブを切り換えることができます。

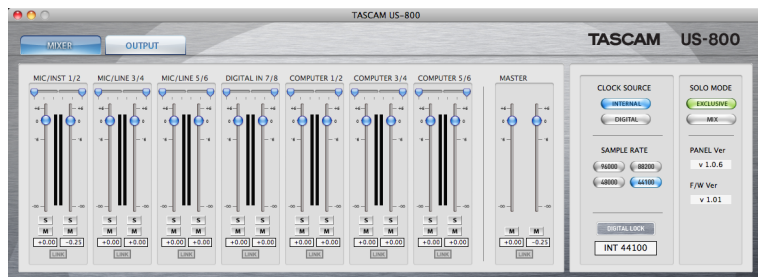
Windowsでは、選択されているタブが手前にあるように表示されます。

Macでは、選択されているタブが点灯します。

ミキサータブ画面



[Windows版コントロールパネル]



[Mac版コントロールパネル]

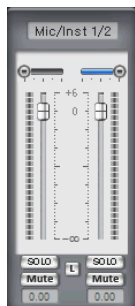
《MIXER》タブをクリックして《MIXER》タブが手前にあるまたは点灯している場合に、この画面が表示されます。

この画面では、内蔵ミキサーの設定を行います。

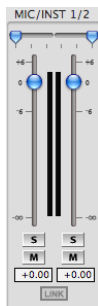
左14列が入力のフェーダーです。左から順にアナログ入力6チャンネル、デジタル入力2チャンネルおよびパソコンからの信号6チャンネルになります。右の2本のフェーダーがステレオ L / R のマスターフェーダーです。

第4章 US-800 コントロールパネルの設定

入力フェーダー部



[Windows]



[Mac]

● 入力表示部

各フェーダーの入力名を表示します。

● バンスライダー

各チャンネルのパンを設定します。

L15 ~ C ~ R15の範囲で設定できます。

左いっぱいにしたとき (L15) は、Lチャンネルに全入力割り当てられ (0dB)、Rチャンネルには入力は割り当てられません (−∞)。

右いっぱいにしたとき (R15) は、逆になります。

パンをセンターにしたとき (C) は、−3dBでL/Rに均等に振り分けられます。

《Stereo link》をオンにしたときには、バランス動作 (左チャンネルと右チャンネルが連動し、左を大きくすると右が小さく、左を小さくすれば右が大きくなる動作) します。

このとき、2チャンネルで1個の表示になります。

● 入力レベルメーター

各チャンネルの入力レベルを表示します。

入力1-8ではフェーダーがかかる直前のレベル、《Computer 1-6》ではフェーダーのかかった直後のレベルを表示します。

● 入力フェーダー

ミキサー入力レベルを調整するフェーダーです。

−∞ ~ +6dBまで調整可能です。

● ソロ (SOLO / S) ボタン

オンにするとソロがオンになっていないチャンネルがミュートされ、ソロがオンになっているチャンネルの音声だけがステレオ L/R バスへ送られます。また、ソロモードが《MIX》の場合は、複数のチャンネルでソロをオンにできますが、《Exclusive》の場合には、最後に《SOLO》/《S》ボタンをオンにしたチャンネルのみソロがオンになります。

オン : 点灯

オフ (初期値): 消灯

● ミュート (Mute / M) ボタン

各チャンネルをミュートします。

オン : 点灯

オフ (初期値): 消灯

● ステレオリンク (L / LINK) ボタン

左右のチャンネルのフェーダーを同期させて動かします。また、バンスライダーを一つにして連動させます。

オン : 点灯

オフ (初期値): 消灯

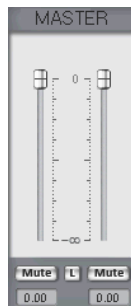
● フェーダーレベル表示

フェーダーの現在の位置をデシベルで表示します。

Macの場合は、バンスライダーを動かすと、一時的にパンの位置情報 (L15 ~ C ~ R15) が、ここに表示されます。

第4章 US-800 コントロールパネルの設定

マスターフェーダー部



[Windows]



[Mac]

● マスターフェーダー

ステレオマスターのフェーダーです。
Lチャンネル、Rチャンネルの2本があります。
ステレオリンクを解除すれば、Lチャンネルと
Rチャンネル別々に操作することも可能です。

● ミュート (Mute / M) ボタン

各チャンネルをミュートします。

オン : 点灯
オフ (初期値) : 消灯

● ステレオリンクボタン

左右のチャンネルのフェーダーを同期させて動かします。

オン (初期値) : 点灯
オフ : 消灯

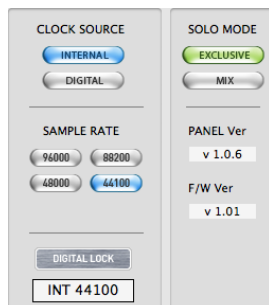
● フェーダーレベル表示

フェーダーの現在の位置をデシベルで表示します。

システム設定部



[Windows]



[Mac]

● Clock / CLOCK SOURCE

サンプリングクロックのソースの選択を行います。
Windowsでは、クリックごとに切り換わりま
す。Macは、該当のボタンをクリックします。

● Internal (初期値) :

US-800の内蔵クロックを使用します。

● Digital / DIGITAL :

DIGITAL IN端子の信号のクロックを使用し
ます。

● Lock / DIGITAL LOCK インジケーター

クロックと同期がとれているかの状態を表示し
ます。

同期している場合に点灯します。

● Samplerate / SAMPLE RATE

サンプリング周波数を設定します。

《Clock》 / 《CLOCK SOURCE》が《Internal》 /
《INTERNAL》のときは、サンプリング周波数を
選択します。

Windowsではプルダウンメニューから、Mac
では該当のボタンをクリックします。

設定値 : 44100Hz (初期値)、48000Hz、
88200Hz、96000Hz

《Clock》 / 《CLOCK SOURCE》が《Digital》 /
《DIGITAL》の場合は、サンプリング周波数は自
動的に選択されます。

第4章 US-800 コントロールパネルの設定

● Solo / SOLO MODE (ソロモード選択)

ソロモードを《MIX》、《Exclusive》の2種類から選択します。

Windowsでは、クリックごとに切り換わります。Macでは、該当のボタンをクリックします。

● MIX (初期値) :

複数のトラックを同時にソロにできます。

● Exclusive :

1つのチャンネルまたは1つのステレオチャンネルのみソロにすることができます。

このモードの場合は、新規に他のチャンネルをソロにすると、今までソロになっていたチャンネルの《SOLO》 / 《S》ボタンはオフとなります。

● Panel Ver. (Macのみ)

コントロールパネルのバージョンを表示します。

メモ

Windowsでは、《OUTPUT》タブ画面で表示されます。

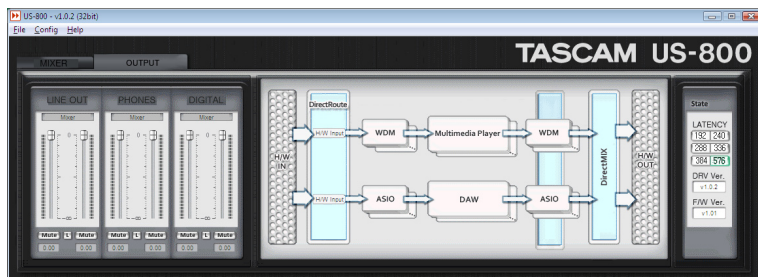
● F/W Ver. (Macのみ)

本体のファームウェアのバージョンを表示します。

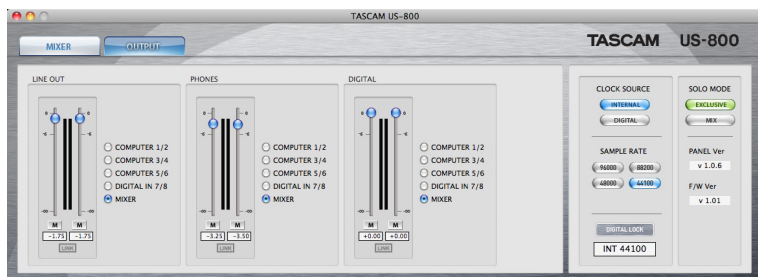
メモ

Windowsでは、《OUTPUT》タブ画面で表示されます。

アウトプットタブ画面



[Windows版コントロールパネル]



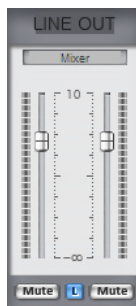
[Mac版コントロールパネル]

第4章 US-800 コントロールパネルの設定

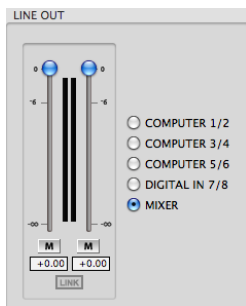
《OUTPUT》タブをクリックして《OUTPUT》タブが手前にある、または点灯している場合に、この画面が表示されます。
出力の設定を行います。

フェーダー部

左の3つのフェーダーは、US-800の出力を設定します。それぞれ《LINE OUT》、《PHONES OUT》、《DIGITAL OUT》を調整します。



[Windows]



[Mac]

● 出力名表示

各フェーダーの出力名を表示します。

● OUTPUT selector (出力選択)

《LINE OUT》、《PHONES》、《DIGITAL》の各出力先に下記の出力を設定できます。

設定項目	内容
Computer 1/2	パソコンからの信号1-2
Computer 3/4	パソコンからの信号3-4
Computer 5/6	パソコンからの信号5-6
Digital In	DIGITAL IN端子からの信号
Mixer (初期値)	内蔵ミキサーの出力信号

● レベルメーター

フェーダーをかけた直後のレベルを表示します。

● フェーダー

出力のレベルを調整するフェーダーです。

-∞ ~ 0dBまで調整可能です。

● ミュート (Mute) ボタン

各チャンネルをミュートします。

オン : 点灯

オフ (初期値): 消灯

● ステレオリンクボタン

左右のチャンネルのフェーダーを同期させて動かします。

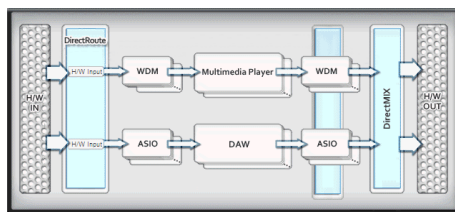
オン (初期値): 点灯

オフ : 消灯

● フェーダーレベル表示

フェーダーの現在の位置をデシベルで表示します。

Direct I/O部 (Windowsのみ)



● Direct I/O

《Direct I/O》は、US-800のドライバー上で、異なったインターフェースを持つアプリケーション間でオーディオ信号をやりとりする機能です。この機能を使うと、例として、下記の様な事が可能になります。

- Multimedia Playerの再生音をASIOインターフェースを持つDAWで録音する。
- ASIOのDAWの出力をWDMアプリで録音する。
- US-800の入力信号を、WDMインターフェースを持つアプリケーションへ送る。

第4章 US-800 コントロールパネルの設定

設定は、一番左の《H/W IN》の右側にある《DirectRoute》部で行います。

《DirectRoute》部内の各ボックスをクリックすると、プルダウンメニューが現れます。このプルダウンメニューで各インターフェースの入力信号を選択します。可能な設定は、下記の通りです。

● WDMの入力設定

設定項目	内容
H/W Input (初期値)	US-800の入力信号
ASIO	ASIOアプリの出力信号

● ASIOの入力設定

設定項目	内容
H/W Input (初期値)	US-800の入力信号
WDM	WDMアプリの出力信号

注意

レイテンシを変更するときは、US-800が接続されているアプリケーションが全て閉じられている必要があります。

メモ

パソコンの能力が足りずにノイズが入る場合は、設定値を大きくします。設定値を大きくすると、その分レンテンシ（オーディオ信号の遅れ）は大きくなります。お使いの環境に合わせて設定してください。

● DRV Ver.

ドライバのバージョンを表示します。

● F/W Ver.

ファームウェアのバージョンを表示します。

システム設定部（Macのみ）

ミキサータブ画面のシステム設定部と同じです。

メモ

設定の際は、信号がループしないようご注意ください。

STATE 部（Windowsのみ）



システム設定・表示部です。

● LATENCY

USBドライバーのレイテンシを設定します。

設定値：192、240、288、336、384、576（初期値）

レイテンシ（LATENCY）について

本機のドライバーは、オーディオ入出力信号を一時的にバッファに蓄えています。

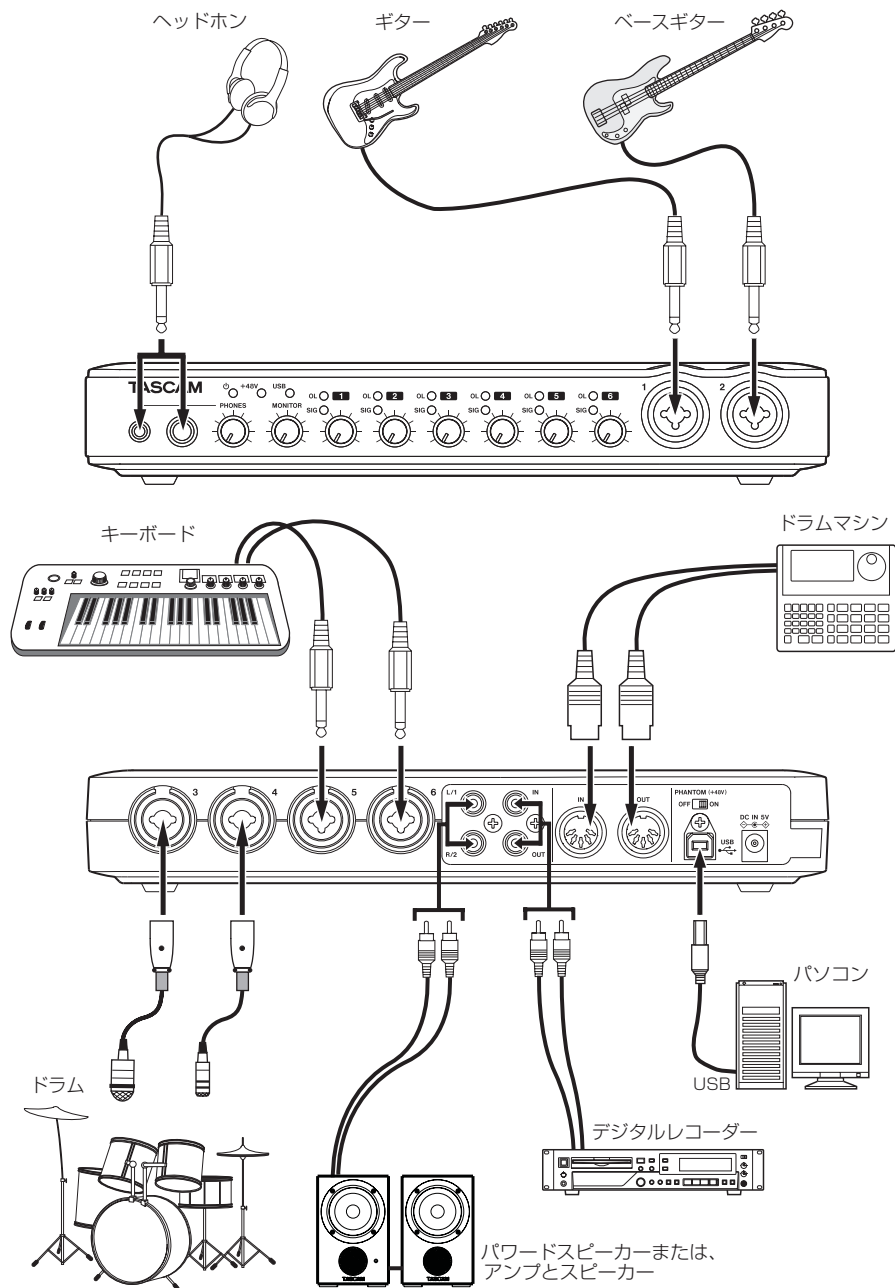
このバッファサイズは、調整が可能です。

バッファサイズが小さいほど、入力信号モニター時のオーディオ信号の遅れが少なくなりますが、パソコンの高速処理が要求されます。

他のシステム操作を行った場合などに処理が間に合わないと、オーディオ信号にクリックノイズ、ポップノイズ、ドロップアウトなどが発生する場合があります。

バッファサイズを大きくするほど動作がより安定し、他のシステム操作のオーディオ信号への悪影響に対して強くなりますが、モニター時のオーディオ信号の遅れが大きくなります。

本機では、ユーザー環境に合わせてバッファサイズを設定することができます。



[US-800 を使った接続例]

USBの接続

付属のUSBケーブルを使って、図のように本機とパソコンを接続してください。

注意

USB機器の中には、USBバスを頻繁に使用するものがあります。オーディオ信号のドロップアウト、クリックノイズなどを避けるために、本機が接続されているパソコンには、マウス、キーボード以外のUSB機器を接続しないことを強くお勧めします。

オーディオの接続

マイク、ギター、キーボード、オーディオ機器などの出力信号を本機に入力し、本機でデジタル信号に変換し、USBを経由してパソコンに送ります。また、スピーカー（アンプ経由）やヘッドホンを実機に接続することにより、本機に入力されるオーディオ信号やパソコンからの出力信号をミックスしてモニターすることができます。

各信号毎にレベル、パンなど調整してミックスすることができます。（詳細は、28ページ 第6章「モニターミキシング」）

マイク

マイクは、フロントパネルの**MIC/INST IN (1-2)**のXLR端子、およびリアパネルの**MIC/LINE INPUTS (3-6)**のXLR端子に入力します。

ファントム電源を必要とするコンデンサーマイクをご使用になる場合は、リアパネルの**PHANTOM +48V**スイッチを**ON**にします。

注意

- **PHANTOM +48V**スイッチを**ON**にした状態でダイナミックマイクをアンバランス接続すると機器が故障する恐れがあります。
- **PHANTOM +48V**スイッチを**ON**にした状態で、マイクの抜き差しをしないでください。大きなノイズを発生し、機器が故障する恐れがあります。
- **PHANTOM +48V**スイッチの**ON**または**OFF**は、機器の出力音量を、フロントパネルの**PHONES**つまみ、**MONITOR**つまみを下げた状態で行ってください。マイクによっては大きなノイズを発生し、他の機器または人体を損傷する恐れがあります。
- 本機の電源をオン／オフ（ACアダプターの抜き差し）する場合は、**PHANTOM +48V**スイッチを**OFF**にして行ってください。

ギター

ギターやベースギターを直接本機に接続する場合は、フロントパネルの**MIC/INST IN (1-2)**のTS標準ジャック端子に接続します。

キーボード／ドラムマシン／音源モジュール／カセットデッキ／MD／CDなど（アナログ接続）

これらの機器のアナログ信号出力は、リアパネルの**MIC/LINE INPUTS (3-6)**のTRS標準ジャック端子に接続します。

音源モジュール／ MD ／ CD など (デジタル接続)

これらの機器のデジタル入出力は、リアパネルの
DIGITAL IN ／ OUT 端子に接続します。

メモ

- 本機のデジタル入出力端子は、RCAピンジャックです。
- 本機のデジタル入出力信号は、S/PDIF信号が入出力できます。

モニタースピーカー

モニタースピーカー（パワードスピーカーまたは、アンプとスピーカー）は、リアパネルの**LINE OUT**端子に接続します。

ヘッドホン

ヘッドホンは、フロントパネルの**PHONES**端子（ステレオ標準ジャック）に接続します。

6.3mmステレオ標準ジャックと3.5mmステレオミニジャックの2つのジャックがあります。

ご使用のヘッドホンのプラグにあわせてご利用ください。また、両方の端子を同時に使用する事ができますが、この場合は両方の端子併せて49mW+49mWの出力が可能です。

MIDI機器の接続

入力にキーボード／シンセサイザー、ドラムマシンなどのMIDI機器を接続します。また、出力には音源モジュールなどを接続します。

MIDI IN ／ MIDI OUT端子を使って、MTC（MIDIタイムコード）の送受信を行うことができます。

これにより、パソコンのアプリケーション上のMTC（MIDIタイムコード）対応のMTR（マルチトラックレコーダー）とMIDI機器を同期することができます。

第6章 モニターミキシング

ここでは、モニターミキシングする場合の各設定方法を、具体例を用いて紹介します。

用途

本機のモニター用デジタルミキサーを使用することで、遅延の非常に少ないモニターミキシングが可能です。

具体例として、ギターを本機に入力し、その信号を演奏者がモニターする場合を考えます。

本機からUSB経由でパソコンへ送られた信号が、パソコン上のアプリケーションを通して再びUSB経由で本機に戻ってくるまでには、通常数10msの時間がかかります。この場合、演奏者がギターを弾いた後、数10ms経ってからその音が聞こえることとなり、演奏が非常に難しくなります。

本機は、この状況を解消するため、本体内にモニター用のデジタルミキサーを持っています。

このミキサーでは、本機の入力信号とパソコンからの再生信号をミックスし、本機から出力する事ができます。

ミキサーへ送られる入力信号は、USBなどを経由しないため、遅れの少ない状態でミックスされ出力されます。このため、演奏した音が演奏者に届くまでの時間が、まったく問題の無いレベルまで短縮されます。

また、デジタルミキサーには、各入力チャンネルにフェーダ、パン、《Mute》／《M》ボタン、《SOLO》／《S》ボタン、レベルメーターが装備されているため、お好みのモニターミックスを作る事ができます。

デジタルミキサーを使ってモニターするには

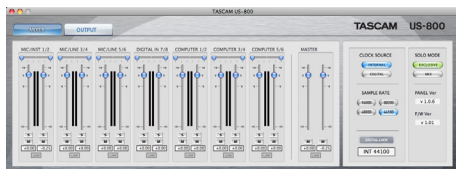
使用例として、パソコン上のアプリケーションで再生した音に併せてギターを演奏し、ギターの演奏音とアプリケーションでの再生音をミックスして、ヘッドホンでモニターする場合を考えます。

ギターはMIC/INST 1端子に接続しており、ヘッドホンは本機のPHONES端子に接続されている事とします。

1. 本機のコントロールパネルを開き、《MIXER》タブをクリックして《MIXER》画面を表示させます。



[Windows版コントロールパネル・MIXERタブ]

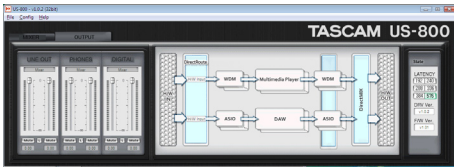


[Mac版コントロールパネル・MIXERタブ]

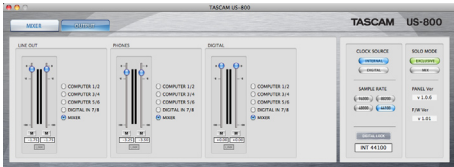
2. ギターを弾いて《MIC/INST 1》のメーターが振れる事を確認します。
3. パソコン上のアプリケーションで、モニター用の再生音をUS-800のポート1 / 2へ出力させます。すると、《MIXER》画面の《Computer 1/2》のチャンネルのメーターが振れます。

4. 《OUTPUT》タブをクリックしてアウトプットタブ画面を開き、左側の3つの出力セクションの内、《PHONES》のエリアにおいて、出力ソースセクタで《MIXER》を選択します。すると、ミキサーの出力がヘッドホン出力端子へ送られます。

この状態で、パソコンのアプリケーションの再生音とMIC/INST IN (1) 端子の入力がミックスされた音がヘッドホンから聞こえます。



[Windows版コントロールパネル・OUTPUTタブ]



[Mac版コントロールパネル・OUTPUTタブ]

5. ヘッドホン出力音量は、アウトプット画面の《PHONES》エリアのフェーダー、および本体フロントパネルのPHONESつまみで調節します。
6. ギターの音とアプリケーションの再生音の音量バランスは、ミキサー画面のそれぞれのフェーダーで調節します。
7. ギター音をセンターに定位させるには、《Mic/Inst 1》のパンをセンター (C) にします。

8. 他を使用していないチャンネルの音を完全に消音したい場合は、使用していないチャンネルの《Mute》ボタンをオンにするか、あるいは《Mic/Inst 1》と《Computer 1/2》の《SOLO》／《S》ボタンをオンにします（ソロモードが《Mix》になっている必要があります）。

上記は一例で、好みや必要に応じて、《Computer 1/2》ではなく、《Computer 3/4》をモニター用再生音として使用したり、他の入力端子を使用したり、あるいは全てのミキサーチャンネルを使用する事も可能です。ミックスするチャンネル数が多い場合は、ミックスした音がクリップしない様、各ミキサーチャンネルのフェーダーでレベルを調節してください。

第7章 アプリケーションガイド

ここでは、いくつかのオーディオアプリケーションと組み合わせて使用する場合の各設定方法を紹介します。

Cubase LE 5

詳しくは、付属のCubase LE 5クイックスタートガイドをご参照ください。

Windows XP と Windows Media Player

1. 全てのアプリケーションを終了し、《スタートメニュー》より《コントロールパネル》を開きます。
2. 《サウンドとオーディオデバイス》を開きます。

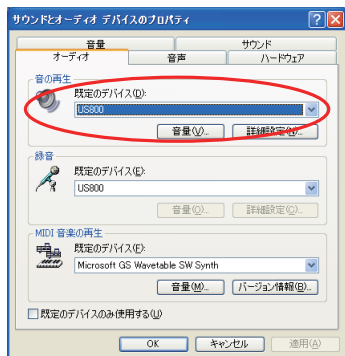
メモ

上記項目が見あたらない場合は、《サウンド、音声、およびオーディオデバイス》をクリックした後に表示されます。



サウンドとオーディオデバイス

3. 《オーディオ》タブをクリックし、《音の再生》の《既定のデバイス》で、《US800》を選択します。



4. 《OK》をクリックします。

5. Windows Media Playerを起動し、オーディオファイルを選択して再生を行ってください。

メモ

- Windows Media Playerを起動した状態で設定を行った場合は、Windows Media Player側でデバイスの切り換えが認識されません。この場合は、Windows Media Playerを再起動してください。
- 上記設定／操作を正しく行ったが、音が出ない場合は、パソコンを再起動してください。
- この設定を行うと、本機経由で音は出ますが、パソコンのスピーカーやヘッドホン端子から、音は出なくなります。

Windows Vista または Windows 7 と Windows Media Player

1. 全てのアプリケーションを終了し、《スタートメニュー》より《コントロールパネル》を開きます。
2. 《サウンド》を開きます。

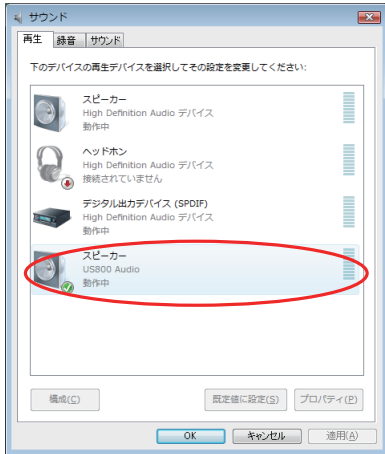
メモ

上記項目が見あたらない場合は、《ハードウェアとサウンド》をクリックした後に表示されます。



サウンド

3. 《再生》タブをクリックし、《スピーカー US800 Audio》をクリックし、《既定のデバイスとして設定》をクリックします。このとき、緑のチェックマークが《スピーカー US800 Audio》に移動します。



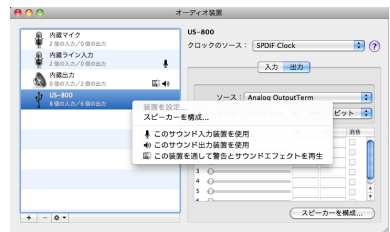
4. 《OK》をクリックします。
5. Windows Media Playerを起動し、オーディオファイルを選択して再生を行ってください。

メモ

- Windows Media Playerを起動した状態で設定を行った場合は、Windows Media Player側でデバイスの切り換えが認識されません。この場合は、Windows Media Playerを再起動してください。
- 上記設定／操作を正しく行ったが、音が出ない場合は、パソコンを再起動してください。
- この設定を行うと、本機経由で音は出ますが、パソコンのスピーカーやヘッドホン端子から、音は出なくなります。

Mac OS X と iTunes

1. 《アプリケーション》フォルダの中の《ユーティリティ》フォルダの中にある《Audio MIDI 設定》をダブルクリックして起動します。
2. 《オーディオ装置》を開き、《US-800》をコントロールを押しながらクリックして表示される《このサウンド入力装置を使用》と《このサウンド出力装置を使用》をクリックします。マイクとスピーカーのマークがUS-800に移動します。



3. iTunesを起動し、オーディオファイルを選択して再生を行ってください。

第8章 スタンドアローンモード

概要

本機の電源が入って（付属の専用ACアダプターTASCAM PS-P520が接続されている）いて、USBケーブルがパソコンとつながっていないとき、本機はスタンドアローンモードと呼ばれるモードで動作します。

パソコンなどを使わずに、本機をマイク用プリアンプとして動作させることができます。

スタンドアローンモード時の各設定

スタンドアローンモードでは、入力信号は固定値に設定された内蔵デジタルミキサーおよび出力セレクターを通して、出力端子に出力されます。

ミキサー

ミキサーの各設定値は、以下の値に固定されます。

- フェーダー：全て0dBに設定されます。
- パン：奇数チャンネルはLチャンネルに、偶数チャンネルはRチャンネルに割り当てられます。
- ミュート：全てオフ
- ソロ：全てオフ
- ステレオリンク：オフ

出力セレクター

出力セレクターの設定値は、以下の値に固定されます。

- LINE OUTセレクター：1/2
- PHONESセレクター：MIXER
- DIGITAL OUTセレクター：3/4

サンプルレート

デジタル入力がアクティブのとき、《Clock》の設定は《DIGITAL》に設定され、サンプルレートはデジタル入力に依存します。

デジタル入力がアクティブでないとき、《Internal》に設定され、サンプルレートは《44.1kHz》に設定されます。

第9章 MIDI インプリメンテーションチャート

MIDIインプリメンテーションチャート

機能		送信	受信	備考
ベーシック・チャンネル	電源オン時	×	×	スルー
	設定可能	×	×	
モード	電源オン時	×	×	スルー
	メッセージ	×	×	
	代用		
ノート・ナンバー	音域	×	×	スルー
ベロシティ	ノート・オン	×	×	スルー
	ノート・オフ	×	×	
アフター・タッチ	キー別	×	×	スルー
	チャンネル別	×	×	
ピッチ・ベント		×	×	スルー
コントロール・チェンジ		×	×	スルー
プログラム・チェンジ		×	×	スルー
	設定可能範囲 #		
システム・エクスクルーシブ		×	×	スルー
システム・コモン	ソング・ポジション	×	×	スルー
	ソング・セレクト	×	×	
	チューン	×	×	
システム・リアルタイム	クロック	×	×	スルー
	コマンド	×	×	
その他	ローカル・オン／オフ	×	×	スルー
	オール・ノート・オフ	×	×	
	アクティブ・センス	×	×	
	リセット	×	×	
備考				

モード1：オムニ・オン、ポリ

モード2：オムニ・オン、モノ

○：YES

モード3：オムニ・オフ、ポリ

モード4：オムニ・オフ、モノ

×

第 10 章 トラブルシューティング

本取扱説明書の手順通り設定しても、本機が正常に使用できない場合は、まずは本章をご確認ください。

本章で解決できない場合は、タスカムカスタマーサポートまで、下記のご使用環境と、詳しい状況をお知らせいただきますようお願いいたします。

お問い合わせ先につきましては、巻末をご参照ください。

ご使用環境

- パソコンメーカー；
- モデル；
- CPU；
- 搭載メモリー；
- OS；
- 使用アプリケーション；
- ウイルス対策ソフトの有無；
- 無線LAN の有無；

● インストールできない。

インストールしたがパソコンに認識されない。



何らかの問題が発生し、インストールに失敗する、またはインストールは完了したがパソコンに認識されない場合は、下記をご確認ください。

1) USBインジケータの点灯

本機のフロントパネルにあるUSBインジケータは、点灯しておりますでしょうか。

USBインジケータが点灯していない場合は、正しくUSBケーブルが接続されているかご確認ください。

メモ

必ず付属のUSBケーブルをご使用ください。

2) USBポートの差し替え

USBポートによっては、本機が正常に動作しないものもございますので、パソコン本体の別のUSBポート（オンボードの）に接続して、再度インストールをお試しください。

メモ

- その他のUSB機器は、接続せずにお試しください。（キーボード・マウスは、接続しても構いません。）
- USBハブはご使用にならず、必ずパソコン本体の（オンボードの）USBポートに接続してください。

3) 常駐ソフトの停止

アンチウイルスソフトなどの常駐ソフトがインストールの妨げとなる場合がございますので、インストール前に終了してください。

ドライバのアンインストール／インストール方法は、本取扱説明書の13ページ「ドライバのインストール」をご参照ください。

● オーディオを再生しても音が鳴らない。

↓

パソコン側で音声出力の設定が必要です。

本機をパソコンに接続した状態で下記をご確認ください。なお、以下の設定を行うと、本機経由で音は出ますが、パソコンのスピーカーやヘッドホン端子から、音は出なくなります。

Windows XP

1. 全てのアプリケーションを終了し、《スタートメニュー》より、《コントロールパネル》を開きます。
2. 《サウンドとオーディオデバイス》を開きます。

メモ

上記項目が見あたらない場合は、《サウンド、音声、およびオーディオデバイス》をクリックした後に表示されます。

3. 《オーディオ》タブをクリックし、《音の再生》および《録音》の《規定のデバイス》をクリックし、《TASCAM US-800》を選択します。

Windows Vista および Windows 7

1. 全てのアプリケーションを終了し、《スタートメニュー》より、《コントロールパネル》を開きます。
2. 《サウンド》を開きます。

メモ

上記項目が見あたらない場合は、《ハードウェアとサウンド》をクリックした後に表示されます。

3. 《再生》タブをクリックし、《スピーカー US-800》を右クリックし、《規定のデバイスとして設定》をクリックします。

Mac OS X

1. 全てのアプリケーションを終了し、《アップルメニュー》より《システム環境設定...》画面を開きます。
2. 《サウンド》を開きます。
3. 《出力》タブから《US-800 output》を選択します。

設定が完了しましたら、パソコンを再起動し、再生音をご確認ください。また、お使いのアプリケーションによっては、上記とは別にデバイス設定を行う必要があるものがごございます。特にDAWは、上記OSの設定とは別のオーディオエンジンで動作していますので、本機のドライバーをインストール後、まずはDAWのドライバー設定をご確認ください。お使いのアプリケーションの詳しい設定方法については、各マニュアルをご参照ください。また、バンドルソフトのCubase LE 5については、付属のCubase LE 5 DVD-ROMに収録されている取扱説明書をご参照ください。

第 10 章 トラブルシューティング

● 音切れやノイズが発生する。



パソコンの負荷が原因で音切れやノイズが発生します。

パソコンの負荷を軽減させる方法を下記にご紹介いたします。

- 1) 無線LANやアンチウイルスソフトなどの常駐ソフトがバックグラウンドで動作している場合は、定期的な負荷がかかり、音切れやノイズの原因となります。
無線LANの通信を停止、アンチウイルスソフトなどの常駐ソフトを停止してご使用ください。

- 2) お使いのオーディオアプリケーション、あるいは本機のコントロールパネルにてバッファサイズ（レイテンシー）の設定を大きくすることをお試しください。

メモ

オーディオアプリケーション側でパソコンへの負荷を減らす方法を、オーディオアプリケーションのメーカー様にお問い合わせください。

- 3) パソコンをオーディオ処理に適した設定に変更してください。

Windows XP

1. 《マイ コンピュータ》を右クリックし、《プロパティ》を選択します。
2. 《詳細設定》タブをクリックします。
3. 《パフォーマンス》枠の《設定》をクリックします。
4. 《パフォーマンスオプション》画面で、《パフォーマンスを優先する》を選択します。

Windows Vista

- a) 《Aero》（エアロ）を《OFF》に設定
1. デスクトップを右クリックし、《個人設定》を選択します。

2. 《ウィンドウの色とデザイン》をクリックし、ウィンドウ下の《詳細な色のオプションを設定するにはクラシックスタイルの [デザイン] プロパティを開きます》をクリックします。

3. 《配色》に《Windows Vista ベーシック》など《Windows Aero》以外の項目を選択します。

b) パフォーマンス設定

1. 《コンピュータ》を右クリックし、《プロパティ》を選択します。
2. 《システムの詳細設定》をクリックします。
3. 《詳細設定》タブをクリックします。
4. 《パフォーマンス》枠の《設定》をクリックします。
5. 《パフォーマンスオプション》画面の《視覚効果》タブで、《パフォーマンスを優先する》を選択します。

Windows 7

- a) 《Aero》（エアロ）を《OFF》に設定
1. デスクトップを右クリックし、《個人設定》を選択します。
2. テーマを《ベーシックテーマとハイコントラストテーマ》の中から選択します。
- b) パフォーマンス設定
1. 《コンピュータ》を右クリックし、《プロパティ》を選択します。
2. 《システムの詳細設定》をクリックします。
3. 《詳細設定》タブをクリックします。
4. 《パフォーマンス》枠の《設定》をクリックします。
5. 《パフォーマンスオプション》画面の《視覚効果》タブで、《パフォーマンスを優先する》を選択します。

Mac OS X

1. 《アップルメニュー》より《システム環境設定...》画面を開き、《省エネルギー》を選択します。
2. 《スリープ》タブをクリックします。
3. 《パソコンがスリープするまでの静止している時間》を《しない》に設定します。
4. 《ディスプレイがスリープするまでのパソコンが静止している時間》を《しない》に設定します。
5. 《オプション》タブをクリックします。《プロセッサのパフォーマンス》を《最高》に設定します。

メモ

Mac OS Xのバージョン、またはMacintoshコンピュータによっては、この設定が無い場合があります。

● Cubase LE 5のお問い合わせについて

↓

Cubase LE 5につきましては、Steinberg社より供給された製品のため、弊社ではサポート対象外となります。

ご使用方法につきましては、Cubase LE 5のヘルプメニューをご参照いただきますようお願い致します。

第 11 章 仕様

定格

サンプリング周波数

44.1/48/88.2/96kHz

量子化ビット数

24ビット

入力定格

アナログ入力定格

マイク入力 (MIC IN 1-6)

バランス

コネクター: XLR-3-31

(1: GND、2: HOT、3: COLD)

入力インピーダンス: 2.2k Ω

規定入力レベル: -14dBu (0.15Vrms)

最小入力レベル: -58dBu (0.001Vrms)

最大入力レベル: +2dBu (0.98Vrms)

ライン入力 (LINE IN 3-6)

バランス

コネクター: 6.3mm (1/4") TRS標準ジャック

(Tip: HOT、Ring: COLD、Sleeve: GND)

入力インピーダンス: 15k Ω

規定入力レベル: +4dBu (1.23Vrms)

最小入力レベル: -40dBu (0.008Vrms)

最大入力レベル: +20dBu (7.75Vrms)

インストゥルメント入力 (INST IN 1-2)

アンバランス

コネクター: 6.3mm (1/4") TS標準ジャック

(Tip: HOT、Sleeve: GND)

入力インピーダンス: 1M Ω

規定入力レベル: -13dBV (0.22Vrms)

最小入力レベル: -57dBV (0.001Vrms)

最大入力レベル: +3dBV (1.41Vrms)

デジタル入力定格

COAXIAL (DIGITAL IN)

コネクター: RCAピンジャック

フォーマット: IEC 60958-3 (S/PDIF)

出力定格

アナログ出力定格

ライン出力 (LINE OUT L-R)

アンバランス

コネクター: RCAピンジャック

出力インピーダンス: 200 Ω

規定出力レベル: -10dBV (0.316Vrms)

最大出力レベル: +6dBV (2Vrms)

ヘッドホン出力 (PHONES 1-2)

コネクター:

3.5mm (1/8") ステレオミニジャック

6.3mm (1/4") ステレオ標準ジャック

最大出力: 49mW + 49mW (1kHz, 0.1%, 32 Ω)

デジタル出力定格

COAXIAL (DIGITAL OUT)

コネクター: RCAピンジャック

フォーマット: IEC 60958-3 (S/PDIF)

コントロール入出力定格

MIDI入力 (MIDI IN)

コネクター: DIN 5ピン

フォーマット: 標準MIDIフォーマット

MIDI出力 (MIDI OUT)

コネクター: DIN 5ピン

フォーマット: 標準MIDIフォーマット

USB (USB)

コネクター: USB Bタイプ 4ピン

フォーマット: USB 2.0 HIGH SPEED (480MHz)

オーディオ特性

周波数特性

20Hz-20kHz +0.5/-1.5dB
(44.1/48kHz、JEITA)
20Hz-40kHz +0.5/-1.5dB
(88.2/96kHz、JEITA)

S/N比

98dB以上
(LINE IN-LINE OUT、ゲインつまみ min時、
44.1kHz時、JEITA)

総合ひずみ率

0.007%以下
(LINE IN-LINE OUT、ゲインつまみ min時、JEITA)

動作条件

Windows

対応OS

Windows XP 32ビット SP2以上
Windows XP 64ビット SP2以上
Windows Vista 32ビット SP2以上
Windows Vista 64ビット SP2以上
Windows 7 32ビット
Windows 7 64ビット

対応パソコン

USB2.0ポートを装備したWindows対応パソコン

CPU / クロック

Pentium4 1.4GHz以上
AMD Athlon 1.4GHz以上
(または同等のプロセッサ)

メモリー

1GB以上

Mac OS X

対応OS

Mac OS X 10.6.3以上

対応パソコン

USB端子を標準で装備している
Apple Macintoshシリーズ

CPU / クロック

Intelプロセッサ

メモリー

1GB以上

一般

電源

専用ACアダプター
(TASCAM PS-P520、付属)
AC入力：100-240V、1.0A
DC出力：+5V、2.0A

消費電力

9.0W

外形寸法

262 x 41 x 152mm
(幅 x 高さ x 奥行き、突起含まず)
262 x 44 x 165mm
(幅 x 高さ x 奥行き、最大寸法)

質量

800g

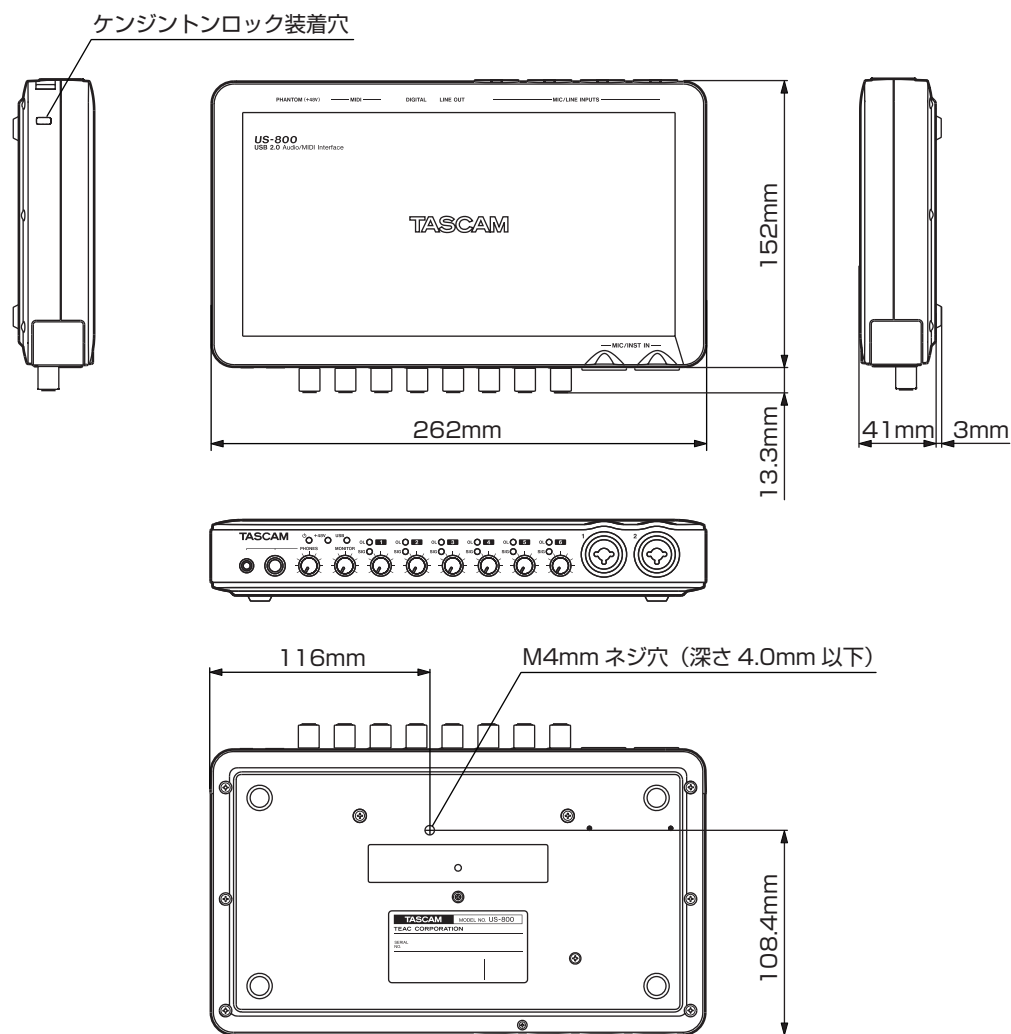
動作温度

5 ~ 35℃

バンドルソフトウェア

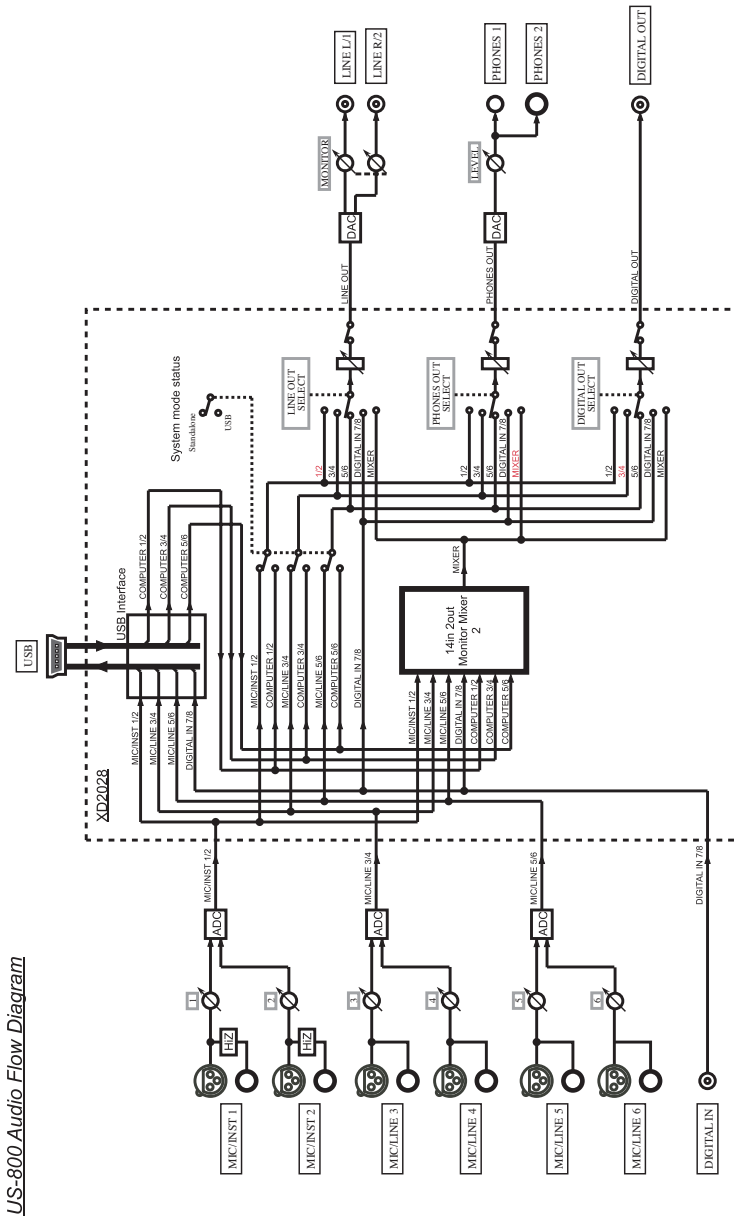
Cubase LE 5 (Windows、Mac OS X用)

寸法図



- * 取扱説明書のイラストが一部製品と異なる場合があります。
- * 製品の改善により、仕様および外観が予告なく変更することがあります。

ブロックダイアグラム



この製品の取り扱いなどに関するお問い合わせは

タスカム カスタマーサポートまでご連絡ください。お問い合わせ受付時間は、土・日・祝日・弊社休業日を除く10:00～12:00 / 13:00～17:00です。

タスカム カスタマーサポート 〒 206-8530 東京都多摩市落合 1-47



0120-152-854

携帯電話・PHS・IP電話などからはフリーダイヤルをご利用いただけませんので、通常の電話番号（下記）にお掛けください。

電話：042-356-9137 / FAX：042-356-9185

故障・修理や保守についてのお問い合わせは

修理センターまでご連絡ください。

お問い合わせ受付時間は、土・日・祝日・弊社休業日を除く9:30～17:00です。

ティアック修理センター 〒 358-0026 埼玉県入間市小谷田 858



一般電話・公衆電話からは市内通話料金でご利用いただけます。

市内通話料でOK
ナビダイヤル®

0570-000-501

ナビダイヤルは全国どこからお掛けになっても市内通話料金でご利用いただけます。

PHS・IP電話などからはナビダイヤルをご利用いただけませんので、通常の電話番号（下記）にお掛けください。

新電電各社をご利用の場合は、「0570」がナビダイヤルとして正しく認識されず、「現在、この電話番号は使われておりません」などのメッセージが流れることがあります。

このような場合は、ご契約の新電電各社へお問い合わせいただくか、通常の電話番号（下記）にお掛けください。

電話：04-2901-1033 / FAX：04-2901-1036

■ 住所や電話番号は、予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

ティアック株式会社

〒 206-8530 東京都多摩市落合 1-47

<http://www.tascam.jp/>

Printed in China